

	前歯部インプラント治療における結合組織移植の可能性
奥田浩規	兵庫県開業
キーワード：抜歯後即時インプラント埋入、結合組織移植	
<p><b>I. はじめに</b>          近年、1 歯における抜歯後即時埋入は良好な結果が得られることが立証されており、条件を満たせば有益な術式であると考えている。Bach. Le らは上顎前歯インプラント部の唇側の硬軟組織について『十分な硬組織は軟組織を維持し、十分な軟組織は硬組織を維持すると述べ、硬組織と軟組織の維持安定には相互作用がある』としている。よって抜歯後即時インプラント埋入の結合組織移植による軟組織増大は長期的なインプラント周囲組織の維持安定に大きな恩恵をもたらす。本症例ではそれらに関する文献的考察を加え、2 歯連続の並列した抜歯後即時インプラント埋入に結合組織移植を併用した症例を提示し、インプラント周囲組織のバリアとなる十分な硬組織、軟組織の獲得、審美的問題における乳頭の保存をどのように行ったかを供覧したいと思う。</p> <p><b>II. 症例の概要</b>          患者：57 歳，女性。非喫煙者          初診：2019 年 1 月          主訴：上顎前歯部インプラント相談。セカンドオピニオン          全身的既往歴：特記事項なし          歯科的既往歴：16 歳の時に転倒し、上顎両中切歯が失活歯となり、根管治療後、補綴修復に至った。来院される半年前に再度転倒して前歯部を強打し、前医院にて既存の補綴装置からデンポラリークラウンに置き換えたとのことであった。          診査初見：PCR：20%，PPD：4mm 以上：21.4% BOP：14.2%，11, 21 に歯根破折を認めた。</p> <p><b>III. 診断名</b>          広汎型・慢性歯周炎・ステージ II・グレード A</p> <p><b>IV. 治療計画</b>          ①歯周基本治療/②再評価/③確定外科処置(抜歯後即時インプラント埋入、結合組織移植)/④再評価/⑤補綴処置 (11, 21PFZ 冠)/⑥SPT</p> <p><b>V. 治療経過</b>          歯周基本治療後、診断用 wax-up からトップダウンにて適正なインプラントポジションを設計後、デジタルドリルガイドを作製。1 回の手術にて、抜歯、軟組織造成を行う。2 歯連続抜歯後インプラント埋入を行うため、乳頭の保存を考え、頬側には口蓋から、乳頭直下には上顎結節からの結合組織を移植した。その後ポンティックにて創部を封鎖し、約 6 ヶ月の治癒を待ち、プロビジョナルレストレーションを作製し、エマージェンスプロファイルを調整後、歯肉の安定を待ち、ファイナルレストレーションに移行する。</p> <p><b>VI. 考察およびまとめ</b>          歯間中央の乳頭尖端が両隣在歯の乳頭位置より歯冠側にあり、乳頭の温存は達成できたのではないだろうか。側面から見た歯肉のボリュームも十分であり、軟組織を支える硬組織も約 3mm に造成することができた。インプラントが並列する症例では、歯間乳頭の再建、温存が難しいとされているが、上顎結節、口蓋からの結合組織に加えて、抜歯即時埋入を併用しその乳頭を支えるポンティックサポートにより良好な結果に至ったのではないかと考える。</p>	
<p><b>略歴</b>          2006 年 愛知学院大学歯学部卒業          2012 年 奥田歯科医院 開業</p> 	